

東日本大震災を契機として、エネルギー供給制約が発生し、国民意識も賢くエネルギーを活用していく方向へ移りつつあります。日本のIT・エレクトロニクス業界は、以前から、省エネ・創エネ・蓄エネに関する技術開発に取り組んでおり、それらをITにより制御するシステムは、国際競争力を有している分野です。日本がかねてより培ってきた環境・エネルギー領域のソリューションは国内だけで

はなく、新興国においても期待されています。

エネルギーの効率化と見える化が社会のニーズとして現れてきている中、JEITAでは、地域におけるエネルギーの全体最適に加え、ITの活用と他分野との融合により、住む人の利便性を向上させ、メリットを享受出来るような住みよい街創りへ向けた、スマートコミュニティ実現のための環境整備などの一翼を担っていきたいと考えております。



スマートコミュニティの実現に向けては、領域を幅広く捉え、社会基盤（電力、水、エネルギー、交通・輸送等）だけでなく、産業や生活（医療、セキュリティ、教育等）などの社会システムを最適化する取り組みが必要だと考えています。

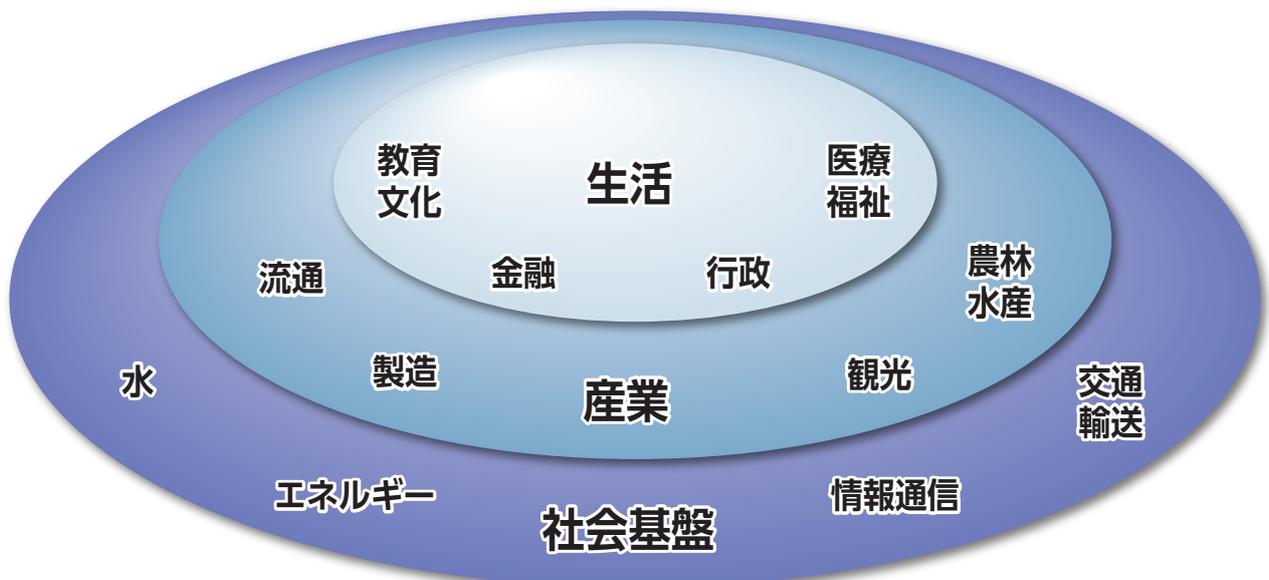
具体的には、安全・安心な社会システムの一つとして注目される医療・ヘルスケア分野のIT利活用があります。電力の見える化と最適制御のシステムに加え、遠隔医療や、地域のどこでも過去の検診情報に基づいた医療を受けられるようにする診療・調剤情報の管理や、体重・血圧などの健康情報の活用により病気を未然に防ぐサービスを合わせて提供していくことなどです。

クラウドコンピューティングの活用も切り離せないものとなっています。あらゆる箇所に設置されたセンサー、EV（電気自動車）などから上がる膨大なビッグデータを収集し、整理・統合したものを、サービスプロバイダが活用することにより新たな付加価値を持つ

たサービスを創出し、住民があらゆる地域から利用できるようにするためです。

企業のあらたな成長エンジンと位置付けるスマートコミュニティの推進においては、それを導入する住民に対し、意義を明確化し、費用に対して十分な効果を見込めることを示していくことが重要です。ITを活用した社会全体のスマート化による、安全・安心で豊かな暮らしの実現に向けて、“どの様な街づくりをするのか”、“技術とどの様に結び付けて住民にメリットがあり、サステナブルな街となるのか”、また、“住民の対価に見合う魅力あるサービスとは何か”について、JEITAでは、業界の枠を越えて考えていくこととしています。

スマートコミュニティの推進は、今あるエネルギー危機を解消するばかりではなく、私たちの次の世代が豊かなくらしを実現していくために、果たさなければならない責任だと考えています。



スマートコミュニティが対象とする社会システムの構造